

後の雨を求めて

「結ばれた祈り」のハンドブック

目次

(1) なぜ雨を求めて祈るのか？	2
(2) なぜ「結ばれた祈り」か？	3
(3) 「結ばれた祈り」とは？	5
(4) 「結ばれた祈り」の始め方	5
・ 礼拝と賛美	7
・ 告白	8
・ 求める祈り	9
・ 感謝の祈り	10
(5) 祈りについての御言葉	10
(6) 「結ばれた祈り」の閉じ方	12
(7) 祈りのリーダーのためのヒント	12
・ 心を備える	12
・ 模範的指導者	13
・ 聖霊の導きに任せる	13
・ 多く祈り少なく語る	14
・ 個々の祈りを短く	14
・ リーダーとしての配慮	14
(8) その他のヒントと資料	15
・ 祈りの4つの要素	15
・ 偽りのリバイバル	18
・ 真のリバイバル	19
・ 御言葉の試金石	20
・ 公の告白	22
・ 祈りを妨げるもの	25
・ 忍耐の必要	26
(9) 教会指導者の言葉	28
(10) 祈りとリバイバルの資料	28

(1) なぜ雨を求めて祈るのか？

「春の雨の季節には、主に雨を求めよ。主は稲妻を放ち、彼らに豊かな雨を降らせ／すべての人に野の草を与えられる。」（ゼカリヤ 10：1）

「クリスチャンが信仰によって約束の祝福を求めるなら、それは与えられます。使徒時代に溢れるほど与えられた聖霊は前の雨で、それは栄光をもたらしました。後の雨はさらに豊かなものとなります。」（『福音伝道』 p 701, 英文）

「もしわたしの名をもって呼ばれているわたしの民が、ひざまずいて祈り、わたしの顔を求め、悪の道を捨てて立ち帰るなら、わたしは天から耳を傾け、罪を赦し、彼らの大地をいやす。」（歴代誌下 7：14）

「神の民があらゆる妨害物をとりのぞいて道をきれいにし、神が、衰えた教会のかたくなな会衆にみたまをそそがれることくらいサタンの恐れることはありません」（『青年への使命』 p 128）

「私たちは使徒たちがペンテコステの日に祈ったように、聖霊の降下を熱心に祈り求めなければなりません。当時の彼らがそれを必要としたのなら、今はなおさらです。道徳的な闇が、棺の覆い布のように地球を覆っています。あらゆる様式の間違った教理、異端、サタンの欺瞞が人の心を惑わせています。聖霊と神の力なしでは現代の真理のための働きは無駄に終わります。」（『教会への証』 5 巻, p 158, 英文）

「真の敬虔が私たちのうちに回復されることは、すべての必要の中で最大の、最も急を要するものです。これを求めることが、私たちの第一にしなければならないことです。主の祝福を受けるために熱心な努力が必要です。それは、神が祝福を喜んでお与えにならないからではなく、私たちにそれを受け取る備えができていないからです。天の父は、求める者に聖霊を与えようとして待っていておいでになります。それは、地上の両親が子どもによいものを与えようとしているのと同じです。しかし、罪を告白し、自尊心を取り去り、悔い改めと熱心な祈りによって神が祝福を与えてくださるお約束の条件を満たすのは、私たちがしなければならないことです。リバイバルは、祈りの応答としてのみ期待できるものです。」（『セレクトッド・メッセージ』 p 157、158）

「神は、働き人が聖霊に深く動かされる経験をする必要があることを私に示されました。彼らの多くが全き回心を必要としています。五旬節の日、弟子たちの途切れることのない祈りに応えて、激しい風が吹いてくるような音と共に聖霊が降下しました。長い間、聖霊の働きは抑制されていましたが、これらのへりくだった人々の熱心な祈りに応えて、彼らと共に働くために力をもって降られたのです。その時どんな告白が人々の唇から出てきたのでしょうか、どんな魂の屈辱が表明されたのでしょうか。また、賛美の歌と感謝の祈りは、どのように悔い改めと告白の声に重なっていったのでしょうか。全天は身をかがめて神を求めるへりくだった民の声を聴きました。」 (The Kress Collection (クレス コレクション) p31, 英文)

「熱心に祈る信徒の輪が地球を取り巻かなければなりません。すべての祈りをへりくだったものにしなければなりません……、家から出ることの出来ない人々が、子供たちと共に集まり、祈ることを学ぶために結束しなければなりません。神の民の祈りに応えて、天の祝福を携えた天使たちが遣わされます。」 (Reflecting Christ 「キリストを映しつつ」, p121, 英文)

(2) なぜ「結ばれた祈り」か？

「また、はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」 (マタイ 18 : 19、20)

「私たちは、祈りが聴かれ、応えられるという天の約束を信じて、成功を求めて祈るように勧められています。この約束は、教会の結束した祈りが捧げられるという条件で与えられ、その祈りの応答とし、個人の祈りに対する応答以上の大きな力が期待できるかもしれないのです。力は教会員の結束と神への愛、相互の愛に比例して与えられます。」 (Manuscript Releases, (公開原稿) vol. 9, p303 (Letter 32, 1903, p5), 英文)

「何という尊い約束でしょう。私たちはそれを信じるのでしょうか。もしこれらの人々の一致した祈りが生きた信仰をもって神のもとに昇るなら、何という素晴らしい結果が見られることでしょう。」 (『伝道』下巻, p91)

「真理のメッセージが最初に公表された時に、私たちはどんなに多く祈ったことでしょうか。どんなにしばしば、とりなしの祈りの声が、私室で、納屋で、果樹園で、林の中で聴かれたことでしょうか。熱心な祈りに何時間も費やすこともしばしばでした。二人、三人が約束の答えを求

めて、共に祈りました。涙声が聴こえ、その後に感謝の祈りの声、賛美の歌声が聴かれることも少なくありませんでした。今、神の日は私たちが最初に信じた時より一層近くなりました。私たちはあの初代の時よりも一層熱心に、一層燃えていなければなりません。」（『教会への証』5巻, p161, 英文）

「五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると』（使徒言行録2:1）

「恵みの御座のもとに、信徒たちは肩を並べて立ち彼らの祈りを一致させなければなりません。それによって、全能者の御手を動かすことが出来るのです。その時、天と地はその働きにおいて固く結ばれて、天使たちの前に大きな喜びがあるのです。その時、失われた羊は見いだされ、立ち返るのです。」（『クリスチャン教育の基礎』p210, 英文）

「モーセが手を上げている間、イスラエルは優勢になり、手を下ろすと、アマレクが優勢になった。モーセの手が重くなったので、アロンとフルは石を持って来てモーセの下に置いた。モーセはその上に座り、アロンとフルはモーセの両側に立って、彼の手を支えた。その手は、日の沈むまで、しっかりと上げられていた。」（出エジプト記17:11、12）

「祈りのために集まる人たちは聖霊の油を受けます。隠れた祈りも大いに必要ですが、何人かのクリスチャンが集まって、神に求める願いごとを真剣に一致させることも必要です。」（In Heavenly Places, 「天国のような場所」P91, 英文）

「どの教会にもこの働きを前進させるために、『結ばれた祈り』のための決まった期間を持つべきです。信仰と祈りのための特別の目的をもって皆が一つとならなければなりません。」（Historical Sketches of the Foreign Missions of the Seventh-day Adventists, （セブンスデー・アドベンチスト外国伝道の歴史的記録）p294, 英文）

「彼らは皆、婦人たちやイエスの母マリア、またイエスの兄弟たちと心を合わせて熱心に祈っていた。」（使徒言行録1:14）

「結ばれた祈り」の目的は、私たちが聖霊に満たされるために心をひとつにすることです。さらに、神の力が溢れるばかりに注がれて大争闘に決着をつけるためにも、結束して祈ることが私たちに勧められています。

(3) 「結ばれた祈り」とは？

あなたの家族、友人、教会員に、「結ばれた祈り」を導入したいと思っても、「結ばれた祈り」がどのようなものなのか、まだ確信が持てない方には、このハンドブックが、思い切って始めるための具体的な提案を与えます。ここで推奨されているモデルは、2名から数100名程度のグループ向けになっていますが、どんな状況でも実施可能です。毎週の祈禱会、伝道集会、教会の礼拝の一環として、また祈禱室や、家庭でも用いることが出来ます。もちろん、あなたのグループは「結ばれた祈り」について、一つの形式だけに縛られる必要はありません。このアイデアは導入にすぎません。神がさらに先へ導いて下さることを期待しましょう。聖霊が祈りの集まりの流れを導かれるのですが、神が秩序の神であることを覚えて、私たちは組織立ったやり方で「結ばれた祈り」を導かなければなりません。いくつかの説明と紹介の後、祈りのリーダーは礼拝と賛美で「結ばれた祈り」を始めます。その後、祈りの勧めをして、グループとしての告白・求める祈り・感謝の祈りへと移行します。以下に時間の割り振りの例を挙げます。

歓迎と導入： 5分

礼拝と賛美： 10分

告白の祈り： 5-10分

求める祈り： 20分

感謝の祈り： 5-10分

祈りのリーダーは会の開始と終了、祈りの各ステップを導きますが、リーダーがすべての祈禱をするわけではありません。これは「結ばれた祈り」であって、出来るだけ多くの人が祈ることが目的だからです。短い祈りが奨励されますが、人々は聖霊の導きに従って祈らなければなりません。

(4) 「結ばれた祈り」の始め方

1時間、あるいはどんな長さの「結ばれた祈り」であっても、始める前に「結ばれた祈り」がどのような流れで行われるかを参加者が理解できるよう手短かに説明しなければなりません。指導の経験を積むにつれて、あなた自身の話し方は改善されていくでしょう。この説明はあくまでスタートするためのもので、神のお導きによって、集会の形態を状況に応じて調整することは自由です。

1. 4つのおもな要素に沿って祈る。

- ・礼拝と賛美：神は私たちが彼の王宮に賛美をもって入るよう命じておられます。それゆえ、

最初のステップでは賛美と礼拝に焦点を合わせます。いきなり私たちの願いごとに入るのではなく、礼拝に時間をとって、御言葉にあらわされされる神のご性質の美しさを瞑想しなければなりません。神をほめたたえることを学ぶにつれて、より多くの祝福が与えられ、さらに神をほめたたえるようになると、靈感は語っています。

・告白の祈り：告白は効果的な祈りの生活の重要な一面です。これはまた私たちと神との間のチャンネルを開いておく助けになります（イザヤ 59：1、2；ヨハネ 1・1：9）。もちろん、多くの罪は個人的な性質を持っていますから、あなたと神の間で無言のうちに告白されるべきです（無言の告白の時間をとることをお奨めします）。公に告白されるべき罪（ヤコブ 5：16）の場合、私たちは他人のつまずきになるような告白（例えばある種の貪欲的な行為や考え、性的な罪など）は望まれていないことを心に留めておかなければなりません。ダニエル書 9 章 4 節から 16 節に、神の民のための共同体としての告白に関するダニエルの実例を見ることが出来ます。この実例は、ここでの祈りにふさわしいタイプの告白です。いずれにせよ最も重要なことは、無言の告白であれ、公の告白であれ聖霊の導きに従って告白することです。（告白の祈りに関しては 22 ページ「公の告白」を参照）

・求める祈り：ここで私たちは神の御言葉に従って、私たちの物質的（肉体的）、霊的（精神的）必要を訴えます。神は、求め、探し、門をたたくようにと語られました（マタイ 7：7）。また私たちが得られないのは、願い求めないからだと言われました（ヤコブ 4：2）。ですから、御言葉に基づいて求めましょう。自分たちのためだけに求めるものではありません。他人の祝福となるよう求めなければなりません。神は素晴らしいものを求めなさいと語られています。私たちが必要とする最も素晴らしいものは聖霊です。このことを中心に置いて祈り求めましょう。私たちは、祈る前に「祈りのリクエスト」を集めることはしないで、求める祈りの中で神に直接求めるように奨励します。

・感謝の祈り：神がかなえて下さったこと、また将来かなえて下さると信じて待ち望んでいることを賛美しつつ、最後は感謝の祈りで終わります。「わたしたちの内に働く御力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方に」（エフェソ 3：20）

2. 祈りのリーダーに従う。

祈りのリーダーは祈りの集いを開始し、終了し、それぞれの祈りの要素を導きます。

3. 一人で何度祈っても構いませんが、それぞれの祈りは短くしましょう。

一つの願いか、二、三の文章程度の長さ、そして一度に一つの要素（賛美・求める祈りなど）に絞りましょう。そして、他の人々に祈る機会を与えましょう。

4. 私たちは「一致・調和した」一つのグループとして祈ります。

聖霊の導きに従って代わる代わる祈りの声をあげましょう。祈りを聴くだけ、あるいは無言で祈ることを望むなら、それも良いことです。

5. あなたが祈る時ははっきりと声に出して祈って下さい。

グループのメンバーがあなたの祈りを聴いてアーメンと言えるように。

6. 祈りの中に聖句や歌を挿むことを求めなさい。

もし神によって心に歌が湧いてきたら、気兼ねせずに歌い始めましょう。他の皆も一緒に歌うでしょう。「歌うことは祈ることと同様、礼拝行為です」(チャイルド・ガイダンス p532, 英文)

祈りの集まりで歌と賛美がほとぼり出るほど美しいことはありません。

7. あなたの祈りに聖霊の注ぎを求めましょう。

「わたしたちは、キリストの名によって祈るだけではなくて、聖霊に感じて祈らなければならない。」(『キリストの実物教訓』 p126)

8. 最後は初めと同様、私たちが互いに親密な輪となるよう促しましょう。

お互いの祈りを聴くことがよりたやすくなり、私たちの間に一致の霊がいつそう働くこととなります。それこそが私たちの願っていることです。私たちが、やがて、天国で家族になろうとしているのなら、今ここで家族としての行動を開始することが出来るはずです。

祈りのリーダーへの注意： 祈りの時間に、その場にふさわしい聖句や、皆が共に歌える歌を入れてほしいと思うかもしれません。次の段階に移る際に、共に歌うことは、礼拝と賛美でグループを結束させる特別な方法です。歌に関しては、誰もが知っている簡単な歌を選ぶようお勧めします。それによって、賛美歌集の必要もなくなり、参加者が賛美歌の番号を探るのに手間取って厳粛な雰囲気損ねる危険を避けることも出来ます。推奨される賛美歌と聖句を参考までに、7~10 ページに載せておきます。

・ 礼拝と賛美

祈りを始める時の賛美歌の例

“Whisper a Prayer in the Morning” “As We Come to You in Prayer” “Sanctuary” 「主よわが目ひらきたまえ(フレンズ 90)」 「わたしのこころに(フレンズ 23)」 “Change My Heart, O God” 「より近くわが主の(希望の讚美歌 332)」 「ながめよイエスを(きぼうのせいさく 44)」

「感謝の歌をうたって主の門に進み／賛美の歌をうたって主の庭に入れ。感謝をささげ、御名をたたえよ。」(詩編 100 : 4)

「御前に進み、感謝をささげ／楽の音に合わせて喜びの叫びをあげよう。……わたしたちを造られた方／主の御前にひざまずこう。共にひれ伏し、伏し拝もう。」（詩編 95：2、6）

「どのようなときも、わたしは主をたたえ／わたしの口は絶えることなく賛美を歌う。……わたしと共に主をたたえよ。ひとつになって御名をあげよう。」（詩編 34：2、4）

「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能者である神、主、かつておられ、今おられ、やがて来られる方。」（黙示録 4：8）

「『その慈しみはとこしえに』と主をたたえるために」（歴代誌下 7：6）

「息あるものはこぞって主を賛美せよ。ハレルヤ。」（詩編 150：6）

神への賛美の歌：「あなたを愛します（きぼうのせい 63）」「聖なる、聖なる（希望の讚美歌 2）」「主よ わが目ひらきたまえ（フレンズ 90）」“Holy Ground” “God So Loved the World”
「わたしのところに（フレンズ 23）」「鹿のごとく（きぼうのせい 117）」「輝く日を仰ぐとき（希望の讚美歌 126）」「ああうるわしき（希望の讚美歌 127）」「ああうれしわが身も（希望の讚美歌 214）」

礼拝の祈りの歌

「あなたを愛します（きぼうのせい 63）」「聖なる聖なる（希望の讚美歌 2）」「わが目を開きて（希望の讚美歌 152）」“Holy Ground” “God So Loved the World”「わたしのところに（フレンズ 23）」「神よ牡鹿の（日基 322）」「輝く日を仰ぐとき（希望の讚美歌 126）」
「ああつくしい主イエスの御名（フレンズ 87）」「ああうれしわが身も（希望の讚美歌 214）」

・告白

「もしわたしの名をもって呼ばれているわたしの民が、ひざまずいて祈り、わたしの顔を求め、悪の道を捨てて立ち帰るなら、わたしは天から耳を傾け、罪を赦し、彼らの大地をいやす。」（歴代誌下 7：14）

「主の手が短くて救えないのではない。主の耳が鈍くて聞こえないのでもない。むしろお前たちの悪が神とお前たちとの間を隔て／お前たちの罪が神の御顔を隠させ／お前たちに耳を傾けられるのを妨げているのだ。」（イザヤ 59：1、2）

「わたしが心に悪事を見ているなら／主は聞いてくださらないでしょう。」（詩編 66：18）

「だから、主にいやしていただくために、罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、大きな力があり、効果をもたらします。」（ヤコブ 5：16）

「自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます。」（ヨハネ 1・1：9）

「東が西から遠い程／わたしたちの背きの罪を遠ざけてくださる。」（詩編 103 : 12）

告白の祈りの賛美歌

「素晴らしい恵みを（きぼうのせい 52）」「感謝します」“Create in Me a Clean Heart”
「いつくしみ深き（希望の讃美歌 346）」「よみがえられた（希望の讃美歌 91）」「罪 重荷を
除くは（希望の讃美歌 290）」「ながめよイエスを（きぼうのせい 44）」“Roll, Roll Your
Burdens Away”「なしたまえみ旨を（希望の讃美歌 362）」

・ 求める祈り

「何事でも神の御心に適うことをわたしたちが願うなら、神は聞き入れてくださる。これが神
に対するわたしたちの確信です。わたしたちは、願い事は何でも聞き入れてくださるとい
うことが分かるなら、神に願ったことは既にかなえられていることも分かります。」（ヨハネ 1・5 :
14、15）

「また、はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一
つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。」（マタイ 18 : 19）

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきな
さい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者
には開かれる。」（マタイ 7 : 7、8）

「あなたがたは、欲しても得られず、人を殺します。また、熱望しても手に入れることができ
ず、争ったり戦ったりします。得られないのは、願い求めないからで」（ヤコブ 4 : 2）

「今までは、あなたがたはわたしの名によっては何も願わなかった。願いなさい。そうすれば
与えられ、あなたがたは喜びで満たされる。」（ヨハネ 16 : 24）

「あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にいつもあるならば、
望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる。」（ヨハネ 15 : 7）

「ああ、主なる神よ、あなたは大きいなる力を振るい、腕を伸ばして天と地を造られました。あ
なたの御力の及ばない事は何一つありません。」（エレミヤ 32 : 17）

求める祈りの賛美歌

“He’s Able”「やさしい神様（フレンズ 93）」「神のわざは（きぼうのせい 62）」「神
の国と神の義を（きぼうのせい 40）」“Make Me a Servant” “Let Your Heart Be Broken”
“Whisper a Prayer”「イエスよみ言葉を（希望の讃美歌 105）」

・感謝の祈り

「わたしたちの内に働く御力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方に」(エフェソ3:20)

「わたしの魂よ、主をたたえよ。主の御計らいを何ひとつ忘れてはならない。主はお前の罪をことごとく赦し／病をすべて癒し」(詩編103:2、3)

「彼らが呼びかけるより先に、わたしは答え／まだ語りかけている間に、聞き届ける。」(イザヤ65:24)

「約束してくださったのは真実な方なので、公に言い表した希望を揺るがぬようしっかり保ちましょう。」(ヘブライ10:23)

「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。……信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神が存在しておられること、また、神は御自分を求める者たちに報いてくださる方であることを、信じていなければならないからです。」(ヘブライ11:1、6)

「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。」(ローマ8:28)

「どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。」(フィリピ4:6)

感謝の讃美歌：「主なる神に(希望の讃美歌128)」“Surely the Presence of the Lord Is in This Place” 「よみがえられた(希望の讃美歌91)」“I Sing the Mighty Power of God” 「神よみ前に(希望の讃美歌111)」「静けき祈りの(希望の讃美歌352)」“Spirit of the Living God” 「イエスよみ言葉を(希望の讃美歌105)」

(5) 祈りについての御言葉

「あなたがたの信じているとおりになるように」(マタイ9:29)

「主に不可能なことがあろうか。」(創世記18:14)

「主は世界中至るところを見渡され、御自分と心をつなにする者を力づけようとしておられる。」(歴代誌下16:9)

「口を広く開けよ、わたしはそれを満たそう。」(詩編81:11)

「戦車を誇る者もあり、馬を誇る者もあるが／我らは、我らの神、主の御名を唱える。」(詩編20:8)

「ある人たちは、遅いと考えているようですが、主は約束の実現を遅らせておられるのではあ

りません。そうではなく、一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです。」（ペトロ2・3：9）

「主があなたたちのために戦われる。あなたたちは静かにしていなさい。」（出エジプト記14：14）

「もし神がわたしたちの味方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか。」（ローマ8：31）

「わたしは神を呼ぶ。主はわたしを救ってくださる。夕べも朝も、そして昼も、わたしは悩んで呻く。神はわたしの声を聞いてくださる。闘いを挑む多くの者のただ中から／わたしの魂を贖い出し、平和に守ってくださる。」（詩編55：17-19）

「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」（マタイ18：20）

「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。」（ローマ10：17）

「あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にいつもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる。」（ヨハネ15：7）

「イエスは彼らを見つめて言われた。『人間にできることではないが、神にはできる。神は何でもできるからだ。』」（マルコ10：27）

「祈り求めるものはすべて既に得られたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになる。」（マルコ11：24）

「見ないのに信じる人は、幸いである。」（ヨハネ20：29）

「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。だから、邪悪な日によく抵抗し、すべてを成し遂げて、しっかりと立つことができるように、神の武具を身に着けなさい……どのような時にも、“霊”に助けられて祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく祈り続けなさい」（エフェソ6：12、13、18）

「この栄光と力ある業とによって、わたしたちは尊くすばらしい約束を与えられています。それは、あなたがたがこれらによって、……神の本性にあずからせていただくようになるためです。」（ペトロ2・1：4）

「あなたがたをお招きになった方は、真実で、必ずそのとおりにしてくださいます。」（テサロニケ1・5：24）

「しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。」（マタイ24：13）

(6) 「結ばれた祈り」の閉じ方

祈りの集まりの終わりに、リーダーは以下の方法で参加者が今後も祈り続けるように励まします。

1. 参加者が「結ばれた祈り」を生活の一部とするよう励まします。出来れば、彼らが他の人々も指導できるように、このテキストを配って下さい。
2. 777 の祈り（週 7 日、午前 7 時と午後 7 時に聖霊を求めて祈り、地球を一周する祈りの鎖を完成する運動）を奨励します。
3. 私たちが天において使徒たちと経験を共有したいと願うなら、祈りにおける忍耐の重要性を強調しなければなりません。
4. 「結ばれた祈り」によって祝福を受けた人がいたら、彼らに証を依頼してください。将来この試みをしようとする人たちの助けになります。リーダーは祈りの集会の直後に証を集め、他の教会員の励みとするよう参加者に奨めてください。
5. 参加者は、神が祈りを通して彼らの心に授けられた確信を、どんなに難しかろうとも持ち続けなければならないということを忘れないでください。私たちは祈ることが出来ますが、もしその祈りが終わった後にも、相変わらず罪深く、自己中心であったとしたら、何が得られるのでしょうか？

(7) 祈りのリーダーのためのヒント

ここでは、あなたが自分の役割の準備するためのアドバイスを提供して、潜在的な罠に陥らないよう支援します。

・心を備える

祈りのリーダーとして、あなたが準備を整え、己を空しくし、聖霊に満たされて祈りの会に来ることは決定的に重要なことです。神の前で良質な時間を過ごした後祈りの集まりにやってくる人に比べて、最後の瞬間まで準備にかかっている人の影響力は小さくなります。

「世界はかつてみられなかったような緊張につつまれている。娯楽に、金もうけに、権力争いに、生存競争に、心も魂も肉体も恐るべき力にひきずられている。このたけり狂うあらしのさなかに神は静かにお語りになっている。神はわれわれにその中から出て神と交われと仰せにな

っている。『静まって、わたしこそ神であることを知れ』（詩編 46：10）と神は仰せになっている。祈りの一時においてさえ、真に神と交わる祝福を受けられない人が多い。彼らはあまりに性急である。彼らは急ぎ足でやってきて、キリストの愛の座に割り込み、聖なる囲いの中にしばらく休息するが、しかし勧告を待ち望む気持ちがない。彼らは天来の教師と共にとどまる時間を持つとうとしない。そうして重荷を負ったまま働きにかえて行くのである。このような働き人は、力の秘訣を学ばないかぎり決して最高の成功に到達し得ないであろう。知・徳・体の能力が一新されるためには、考え、祈り、神のみそばに仕える時間をもたなければならない。みたまの力によって高められなければならない。この力を受けるときに、新鮮な生命がよみがえるであろう。疲れた身体と頭脳は生気をとりもどし、心の重荷は軽くなるであろう。我々にとって必要なことは、神のみ前にちょっとひと休みすることではなくてキリストと直接に交わること、座してキリストと交わることである」（『教育』 p 307、308）

「祈りは魂の呼吸です。それは靈的な力の秘訣です。魂の健康を保とうとすれば、祈りの他には恩恵の手段がありません。……祈りをささげることをおろそかにしたり、あるいは都合次第で時々思い出したように祈りをささげるようでは、神とのつながりが失われてしまいます。」（『青年への使命』 p 245、246）

・ 模範的指導者

私たちが祈る時、私たちは宇宙の王の御座に近づいているのです。言葉にも振る舞いにも丁重であるように、あなたの模範で人々を導きなさい。私たちはひざまずくことを奨励しますが、状況によっては椅子に座る必要な人がいることを理解しなければなりません。

「神の無限の偉大さを意識し、神の御臨在を認めることによって真に神を敬う思いが心に吹きこまれます。……祈りの時間と場所は神聖です。なぜなら、そこには神が御臨在なさるからです。……天使たちは、エホバの名を口にするときには顔をおおいます。ましてや墮落した罪深い人間である私たちは、どんなにうやうやしく神のみ名を口にしなければならぬことでしょう。」（『祈り』 p 328、329）

・ 聖霊の導きに任せる

祈りのリーダーが物事をスムーズに動かす責任を感じるのは自然なことです。しかし、上に述べたように、この祈りの各段階は神とのグループ対話です。沈黙の時間が流れて気まずく感じても、それを恐れてはなりません。聖霊がこの時間を用いて心に語りかけてくださいます。もしかすると、このような時こそ、気の弱い方が祈る機会になるのかもしれないのです。リーダー

一としては、祈りの時間を滞らずに急いで進めようという衝動に抵抗しなければなりません。聖霊が働いて流れを導くのに任せなさい。

・多く祈り少なく語る

私たちが自分たちの問題について、祈る代わりに、とめどなく話し続けるときサタンはワクワクしています。このことを踏まえて、私たちは「結ばれた祈り」の集まりが始まる前に祈りのリクエストを集めることはしません。その代わり参加者には「求める祈り」の時に願いを簡潔に声に出して祈ってもらいます。

「一致団結して、あなた方の問題を神に訴えなさい。語る言葉は少なくなさい。多くの貴重な時間が、何の光明ももたらさないような話しで失われる。兄弟方、神が豊かに与えると約束して下さった知恵を求め、一致団結して断食祈禱をしなさい。」（『食事と食物に関する勧告』 p81）

・個々の祈りを短く

あなたはリーダーとして、短く簡潔な祈りの模範を示しなさい。そうすればグループはあなたの例に倣うでしょう。中には一人か二人（あるいは数人）があなたの示すガイドラインに注意せずに祈り始め、延々と続けるかもしれません。そのような時は忍耐強く彼らが祈り終わるのを待ちましょう。大切なのは彼らが祈っていることです！

「集まりでは短い祈りをしなさい。長々とした祈りは隠れたところで神と語り合う時にしなさい。」（Manuscript Releases, (公開原稿) 10巻, p130, 英文)

「短く要領よく祈ることを学びなさい。あなたに必要なことだけを祈りなさい。」（Our High Calling, (我らの高い召し) 英文, p130)

・リーダーとしての配慮

祈りの中で神に近づくことに馴染めないでいる人がいることを心にかけておかなければなりません。彼らは密室での個人的な祈りに費やす時間が与えてくれる力を経験していないのかもしれませんが。おそらくグループの祈りにも慣れていないのでしょう。長く、立派な祈りを捧げるリーダーは、上手に自分の思いを表現出来ないと感じている人たちにプレッシャーをかけているかもしれません。聖霊の導きのままに祈りなさい。単純な言葉を使いなさい。出席者のレベルを考慮してそのレベルから始めなさい。

祈りの時間の長さ負担を感じる人々がいるかもしれません。この「結ばれた祈り」に初めて参加した人は時間の長さを心配します。祈りだけで1時間もなんて考えられないからです。しかし、祈りの4つの要素を順に進めて行き、個人の祈りを（長々と続く説教のようにではなく）短く簡潔にするようにと奨励されるので、時間は短く感じられます。事実、ほとんどの人は1時間の祈りの集まりが、ほんの20分ほどに感じられるでしょう。多くの人々が「私はこんなに長く祈ったことはありません。でも時間はとても短く感じました。力強かったです」と証言しています。

(8) その他のヒントと資料

・ 祈りの4つの要素

聖書には私たちが強調する祈りの4つの要素の実例がたくさん出てきます。それら実例は旧約聖書と新約聖書の両方に見られますが、特にイエスご自身の祈りの中に見られます。これらの要素は深遠なものですが、子供にも理解できるものです。

主の祈り：（マタイ6：9-13）

「天におられるわたしたちの父よ（賛美・礼拝）、御名が崇められますように（賛美）。御国が来ますように。御心が行われますように、天におけるように地の上にも（御心がおこなわれることを求める）。わたしたちに必要な糧を今日与えてください（自分の必要を求める祈願）。わたしたちの負い目を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように（告白とへりくだり）。わたしたちを誘惑に遭わせず、悪い者から救ってください（霊的勝利を求める祈り）。国と力と栄光とは限りなくあなたのものだからです（賛美・感謝）」

「主の祈りは単に形式として繰り返されることを意図したものではなく、私たちの祈りが、単純で、真剣で、広範なものであるべきという実例です。単純な祈願のなかで、主にあなたの必要を告げて、主の慈しみに感謝しなさい。こうしてあなたは主を歓迎すべき客としてあなたの家と心に迎えるのです。」（『チャイルド・ガイダンス』英文, p524）

「私たちは感謝の祈りが少なすぎます。神の慈愛が感謝と賛美をもたらしたのなら、私たちの祈りにもっと力があるはずです。私たちは、ますます神の愛に溢れて、ますます神をほめたたえたいくなります。神が祈りに応えて下さらないと不満に感じているあなたは、祈り方を変えて、求める祈りに賛美を重ねてください。神の善と慈悲深さを考えるなら、神があなたに必要なものを考えてくださることに気づくでしょう。」（"Testimonies to the Church" vol. 5, p317, 英文）

聖書による祈りの要素の例

ネヘミヤの祈り： ネヘミヤ 1 : 5-11

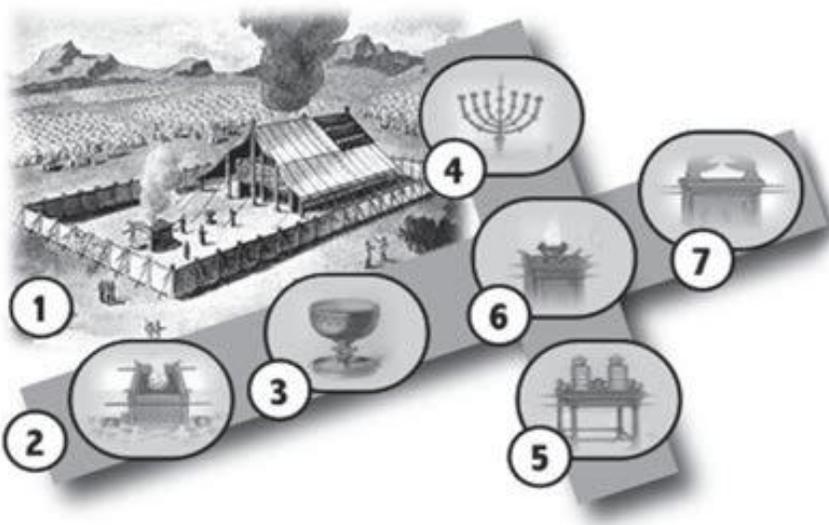
イスラエルの子らの祈り： ネヘミヤ 9 章

ソロモンの祈り： 列王記上 8 章

ダニエルの祈り： ダニエル 9 : 3-19

ペンテコステの前後： 使徒言行録

聖所における祈りのモデル



「神よ、あなたの道は聖所にあります。」（詩編 77 : 14 欽定訳）

1. 感謝の祈り：私たちは次のように教えられています。「感謝の歌をうたって主の門に進み／賛美の歌をうたって主の庭に入れ。感謝をささげ、御名をたたえよ。」（詩編 100 : 4）
2. 告白：聖所内の最初のステップは犠牲の祭壇です。ここで罪を告白し、十字架上の犠牲が自分のためのものというキリストへの信仰を告白します。告白は、私たちが願う天からの雨を受けるために必要不可欠です。（歴代誌下 6 : 26、27；レビ 4 : 26；ローマ 10 : 9-13）
3. 告白と清め：次に、洗盤に進んで私たちは、御言葉の力を通して清めて頂くよう（バプテスマ）、神に求めます。そして神の与える赦しを受けます。（出エジプト記 30 : 18-21；エフェソ 5 : 26）
4. 聖霊を求める：次に、聖所に入って七つの枝を持つ燭台のところに来ます。ここで私たちはバプテスマを受けて、聖霊に満たしていただくよう神に求めます。（黙示録 1 : 12；ルカ 11 : 13）
「神よ、あなたの道は聖所にあり」（詩編 77 : 13 欽定訳）
5. 霊と肉のパンを求める祈り：供えのパンの机の前で、私たちは自分たちの必要を願い求めま

す。最も大切なことは、神ご自身が霊的な命のパンであるということです。一方、神は私たちの肉体のためのパンも、またこの世の生活に必要なものも満たすと約束しておられます。（ヨハネ 6 : 35 ; イザヤ 33 : 16 ; フィリピ 4 : 19）

6. 仲保者を通して求める祈り：香の祭壇では、義なるキリストの祈りが私たち自身の祈りを覆って、神に受け入れられるものにしていただきます。神の義に覆われて、私たちも神と共に人々のとりなしが出来るのです。（ローマ 8 : 26、34 ; イザヤ 59 : 16 ; フィリピ 1 : 3-6）

7. 礼拝と賛美における感謝：最後に、神の臨在の前に身をかがめて、神が私たちのためになして下さったことを思い返す時、礼拝と賛美の音が再び唇からあふれ出ます。ペンテコステを経験した弟子たちのように、私たちの最大の願いが、主にあって経験したことを証することになります。（詩編 150 : 1、2 ; ヘブライ 10 : 19-23）

このような祈りのもたらす結果は何か？

旧約聖書では神は目に見える聖所や神殿に留まられました。今は、私たちが神殿です（コリント 1・3 : 6）。私たちが自分の罪を告白して（ヨハネ 1・1 : 9）賛美のうちに神に立ち返るなら、聖霊が私たちの命を満たすでしょう。もはや、自己中心や自己義認のつけ入る余地はなくなるでしょう。この場所を神の栄光が満たすでしょう。

「ラッパ奏者と詠唱者は声を合わせて主を賛美し、ほめたたえた。……雲が神殿、主の神殿に満ちた。その雲のために祭司たちは奉仕を続けることができなかった。主の栄光が神殿に満ちたからである。」（歴代誌下 5 : 13、14）

「礼拝、祈り、賛美、悔い改めの祈りは真の信仰者から香の煙のように天の聖所に立ち上ります。しかし、それが人間という腐敗した管を通る時にひどく汚されて、血による清めなしには神にとって価値あるものとはならないのです。そのような煙は汚れのない清らかさで天にのぼることはありません。神の右手におられる仲保者が、その義によって全てを清めて下さるのでなければ、神の御前に受け入れられることはありません。地上の幕屋から立ち上る香の煙はキリストの清めの血の滴りによって潤されなければなりません。キリストは父なる神の前に、この世の腐敗の痕跡のないご自身の香炉を持っておられます。彼はこの香炉にご自身の民の祈り、賛美、告白を集められ、これにご自身のしみのない義を加えられます。キリストの贖いの功績を染み込ませて、香の煙は神のもとに完全に受け入れられるのです。そして恵み深い応答があるのです。」（『セレクトッド・メッセージ』 bk. 1, p344, 英文）

「聴き入れられる祈りをささげたければ、祈りの中で私たちが至高の方の謁見室にいるということを実感しなければなりません。それは天の父に祈ることを意味します。身に余る神の愛とあわれみに対して、私たちは、この謁見室に入っても、御前に不十分な感謝の捧げものしかできません。ここに入って、私たちは自身の必要を求め、罪を告白し、主ご自身のお約束に訴えるのです。」（『レビュー・アンド・ヘラルド』1895年5月28日、パート2、英文）

「外見上どんなにりっぱに律法を守ってみても、それは単純な信仰と全的自己否定の代わりにはならない。しかし、人間は、自分で自分をむなしくすることはできない。ただキリストが働いてくださることに同意することができるに過ぎない。そうすれば魂は次のように言うようになる。わたしは弱いのです。そして少しもキリストに似ていません。このようなわたしですが、どうぞお救いください。主よ、わたしの心をお受けください。わたしはこれをささげることにはできません。これは、あなたのものです。どうぞきよく保ってください。これを、わたしが保っていることはできません。どうぞ、わたしを練り、形造り、清い聖なる雰囲気の中に引き上げて、あなたの豊かな愛の流れが、わたしを通して流れ出るようにしてください。この自己否定は、クリスチャン生活の出発において行うばかりでなくて、天に向かって前進することに、新たにしなければならないものである。

わたしたちの行う善行は、すべて、わたしたちの外からの力によるものである。であるから、常に励んで神を仰ぎ、絶えず、心をくだいて罪を告白し、神のみ前に心を低くする必要がある。わたしたちは、絶えず自己を捨て、キリストに頼ることによってのみ、安全に歩くことができる。」（『キリストの実物教訓』p139、140）

・偽りのリバイバル

私たちは聖書的でない祈りや、神秘的な儀式による祈り、神秘主義、観想的なオカルトの祈り、内面の静寂を強調する瞑想的祈り、反復する祈り、込み入っていて分かりづらい祈りなどは奨励も支持もしません。マーク・フィンレーはその著書『信仰のリバイバルをめざして』の中で、「終わりの時代のサタンの関心は救われていないこの世ではない。彼は既にそれを手中に収めている。彼の関心はクリスチャンである。教会の中に欺瞞を持ちこむことによって、彼は無数の人々を誤りに導くだろう」と記している。

「地上に神の最後のさばきが下るに先だって、主の民の間に、使徒時代以来かつて見られなかったような初代の敬虔なリバイバルが起きる。神の霊と力が神の子供たちの上に注がれる。…魂の敵は、この働きを妨害しようとする。そして、こうした運動が起こる前に、偽物を提示することによってそれを妨害しようとする。彼は、自分の欺瞞の力のもとに置くことのできる

諸教会において、神の特別な祝福が注がれているかのように見せかける。大いなる宗教的関心と思われるものが現われる。多くの人々は、神が彼らのために驚くべきことをしておられると喜ぶが、それは、別の霊の働きなのである。宗教的装いのもとに、サタンは、キリスト教世界に自分の勢力を広げようとする。……そこには感情の興奮と、真理と虚偽の混合が見られ、それは人を欺くのに好適なのである。しかし、だれも欺かれる必要はない。神の言葉に照らしてみるならば、これらの運動の本質を見定めることは、むずかしいことではない。人々が聖書の証言をおろそかにし、克己と世俗の放棄とを要求する明快で人の心を試す真理から顔をそむけるならば、神の祝福を受けることができないのは確かである。…『その実によって彼らを見わけるであろう』」（『各時代の争闘』下巻 p.190、191）

・真のリバイバル

リバイバルにおいて、偽りの霊の働きを避けたいという強い願いを果たすには、注意深く真理の灯を守らなければなりません。聖霊の働き、特に霊の賜物の顕現についての不信が、現在普遍的に広がっています。このことは、聖霊に火を消して、大衆を終りの時代の欺瞞に晒します。また、終りの時代に不信仰によって聖霊の灯を消してしまう人々は、預言者ヨエルを通して約束され、ペテロが引用した（使徒言行録 2：17、18）大いなる祝福にあずかることが出来ません。「神は言われる。終わりの時に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、若者は幻を見、老人は夢を見る。わたしの僕やはしためにも、そのときには、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。」

「前の雨」はペンテコステの日に与えられ、初代のクリスチャンたちがそれを享受した結果、福音の種が発芽して、根を張るもととなりました。「後の雨」が神の穀物倉に黄金の実りをもたらすために来ようとしています。これを読んでいる皆さん、不信仰が聖霊の灯を消さないように、また、「信じる者」のために計画された素晴らしい祝福を締め出さないよう気をつけましょう。」（”Spiritual Gifts”（霊の賜物）3巻, p19, 英文）

ペンテコステの日のような聖霊のバプテスマが真の宗教のリバイバルと多くの驚くべき働きを導くでしょう。天使たちは私たちの中に来られて、人は聖霊に感じて語るでしょう。しかし、主はペンテコステ当時と同じように働かれるのです、今日真理を信じていると主張している人たちの多くが聖霊の働き方についてあまりに知らなすぎるために、「熱狂主義（ファナティズム）に気をつけろ」と叫ぶのです。彼らは聖霊に満たされた人々のことを「あの人たちは、新しいぶどう酒に酔っているのだ」と言います。

クリスチャンであると公言している人々の大きな罪は聖霊を受けるために心を開いていないことです。魂がキリストを慕って、彼と一つになりたいと求めている時、信心深さの外見に満足している人から「極端に走らないよう注意しろ」と強く言われるかもしれません。確かに人間的な興奮には気をつけなければなりません、一方で、私たちは聖霊の働きに対して疑問を持ち、不信を抱く人たちの仲間にはならないように気をつけなければなりません。

「主は言われる。『今こそ、心からわたしに立ち帰れ／断食し、泣き悲しんで。衣を裂くのではなく／お前たちの心を引き裂け。』あなたたちの神、主に立ち帰れ。主は恵みに満ち、憐れみ深く／忍耐強く、慈しみに富み／くだした災いを悔いられるからだ。」（ヨエル2：12、13）

神の御座の前にへりくだって、罪を告白し、人々のとりなしをする時、心が折れて時には涙を流すかもしれません。しかしながら、神が私たちのうちにもたらされる真のリバイバルのきざしは、私たちの生活に現れる変化です。

「服従は弟子であることの試金石である。わたしたちの神に対する愛の真実性を証拠だてるのは、律法の遵守である。わたしたちの受け入れる教理が心の罪の根を断ち、魂を汚れから清め、清きに至る実を結ばせるなら、わたしたちはそれが神の真理であることを知ることができる。」
（『祝福の山』 p183）

・ 御言葉の試金石

欺瞞の闇がキリスト教世界に広がる時に、欺かれぬ唯一の方法はあらゆることを聖書によってテストすることです。

「ただ律法と証詞とを求めべし、彼らの言うところこの言にかなわずば晨光あらじ」（イザヤ8：20 文語訳）。神の民には、偽りの教師の感化と暗黒の霊の欺瞞的な力に対する防壁として、聖書がさし示されている。サタンは、人が聖書の知識を得るのを妨げるためにはあらゆる手段を用いる。なぜなら聖書の明白な言葉は彼の欺瞞を暴露するからである。神の働きが復興されるたびに悪の君は奮起していっそう激しく働く。彼は今やキリストとその信徒たちに対する最後の闘争に最大の努力を傾けている。まもなく最後の大いなる欺瞞がわれわれの前に展開されようとしている。反キリストがわれわれの目の前で驚くべき業を行うのである。偽物があまりにも本物によく似ているために、聖書による以外には両者の見分けは不可能である。すべての言説や奇跡は、聖書のあかしによって吟味されなければならない。……聖書の真理によって心を堅固にした人たち以外には、だれも最後の争闘に耐え抜くことはできない。」（『各時代

の大争闘』下巻, p358、359)

「しかし神はこの地上に、聖書、そしてただ聖書だけをすべての教理の基準、すべての改革の基礎として保持する一つの民を、お持ちになるであろう……われわれは世界歴史の最も厳粛な時代に生存している。地上のおびただしい数の人々の運命が、決定されようとしている。われわれ自身の将来の幸福も、他の魂の救いも、今われわれが歩いている道にかかっている。われわれは真理のみ霊によって導かれる必要がある。……われわれは祈りと断食をもって主の前にへりくだり、主のみ言葉について、特にさばきの光景について瞑想する必要がある。われわれは今、神のことについて、深い、生きた経験を求めなければならない。一刻もむだにはできない。」（『各時代の争闘』下巻, p360、368、369)

「人々に祈りを怠るようにさせ、聖書の研究もなおざりにするようにさせておけば、だれでも彼の攻撃に打ち負かされてしまうことを、彼はよく知っている。」（『各時代の争闘』下巻 p261、262)

「悪魔は、祈りをおろそかにする者を暗黒に閉ざし、誘惑の言葉をささやいて罪へおびき入れます。……祈りは、全能の神の無限の資材が蓄えられてある天の倉を開く信仰の手に握られた鍵であります。それにもかかわらず、神の子らは、なぜ祈りをおろそかにするのでしょうか。」（『キリストへの道』 p129)

「われわれの前にある苦悩と苦悶の時は、疲労と遅延と飢えに耐えることのできる信仰、すなわち、激しく試みられても落胆しない信仰を要求する。その時に備えるために、すべての者に恩恵期間が与えられている。ヤコブは、断固として屈しなかったために勝利した。彼の勝利は、しきりに願い求める祈りに力があるということの実証である。彼のように神の約束をしっかりとつかみ、彼のように熱心で忍耐強い者はみな、彼が勝利したように勝利するのである。自分をすて、神の前で心を悩まし、神の祝福を求めて熱心に祈り続けようとしなない者は、それを受けることができない。祈りによる神との格闘—このことを知っている人がなんと少ないことであろう。熱烈な願いをもって、心から神によりすがり、全力を注ぎ出す人がなんと少ないことであろう。嘆願者の上に、言葉では表現することのできない絶望の波が押し寄せる時に、確固不動の信仰をもって神の約束にすぎる者が、なんと少ないことであろう。」（『各時代の争闘』下巻, p395)

・公の告白

良くある質問は『公の告白にふさわしいのはどんなことですか？』です。キリストの体（教会）がその罪に気づいた時、また特定の個人が、その行動や態度で、他人のつまずきの石になっている場合はいつも、公の告白にふさわしいのです。そうでない場合は個人的な告白が奨励されます。1902年の世界総会についてのE・G・ホワイトの幻はこのことを明確にして、現在の私たちに有益な教訓になっています。

サタンが最も恐れることの一つは、私たちが神との間の障害物を取り除くことです。ですから、私たちは、「主のみ顔が見えるように、救い主と私の中に何も無いようにしてください。どんなに小さな恩恵も妨げられることがないように、神との間の通路をきれいにしてください」と祈らなければなりません。

「起こりえたこと」

「ある日の昼頃、私は、前回の世界総会で、もし責任ある立場の人々が神の意思と方法に従っていたなら成し遂げられたはずの働きについて書いていました。その会議はすでに終わっていて、進展は見られませんでした。人々は神の前に謙虚になるべきだったのに、そうしませんでした。それゆえ、聖霊は働きませんでした。

私は、書き続けて、意識をなくしました。そして、私はバトルクリークの場面に立ち会っていました。私たちは礼拝堂に集まっていました。祈りが捧げられ、賛美歌が歌われ、再び祈りがささげられました。熱心な願いがささげられました。その集まりは聖霊の臨在によって特筆すべきものとなりました。その集まりは深められ、ある出席者は大声で泣いていました。

ある人が頭をもたげて次のように話しました。『私は今まで、一部の人達と一致することも、彼らを愛することも出来ませんでした。今、自分のありのままの姿を見つめることが出来ました』。彼はラオデキア教会への勧告を厳粛な思いで復唱しました。『「わたしは金持ちだ。満ち足りている。何一つ必要な物はない」。これは、何でも自力で得られると思っていた私のことです。「自分が惨めな者、哀れな者、貧しい者、目の見えない者、裸の者であることが分かっていない」、今の私がまさに、このような状態であることが分かりました。今、目が開かれました。今まで私の心は頑なで正しくありませんでした。私は、自分が正しい者と思っていましたが、今、心は砕かれて、私を長く探し続けてこられた方の尊い忠告が必要だと悟りました。』

次の言葉は何と恵み深く、同情と愛に溢れていることでしょう。「そこで、あなたに勧める。裕福になるように、火で精錬された金をわたしから買うがよい。裸の恥をさらさないように、身に着ける白い衣を買い、また、見えるようになるために、目に塗る薬をかうがよい。」（黙

示録 3 : 17、18)

彼はそれまで祈っていた人々に向き直って、『私たちには、しなければならぬことがあります。罪を告白し神の前にへりくだらなければなりません』と語りました。彼は心砕けた告白をした後に、主にある兄弟の一人一人に近づいて行き、赦しを求めて手を差し出しました。話しかけられた人々も、はじかれるように立ちあがって、告白し、赦しを求めました。彼らは互いに抱き合って泣きだしました。告白の霊が集会全体を覆いました。これはペンテコステの季節でした。神への賛美が歌われ、夜遅くまで、更に明け方までこの集会は続きました。……心からの告白が出来ない高慢さは誰の内にも見られなくなっていました。この集まりを指導した人たちは、影響力のある人たちではありましたが、以前から自分の罪を告白する勇気を持っていた人たちではありませんでした。会堂にはそれまで聞いたことのないような喜びの声がありました。

その後、私は意識が戻りましたが、しばらくは自分がどこにいるか分かりませんでした。私のペンはまだ手の中にありました。私の耳に次の言葉が聞こえました。『これは起こり得たかもしれない出来事なのです。主はこれらすべての事を自分の民に行おうと待っておられたのです。全天が恵みを下そうと待っておられたのです』。目撃した光景が現実ではなかったことを知って私は失望の苦痛に襲われました。」（『教会への証』8巻, p104-105, 1903年1月5日, バトルクリーク教会へ, 英文）

公の告白と個人の告白に関して考えるためのいくつかの原則を見てみましょう。

「聖書は、『主にいやしていただくために、罪を告白し合い、互いのために祈りなさい』と命じている（ヤコブ 5 : 16）。祈りを求めている人には、次のように告げなさい。『わたしたちは、心の中を読むことはできません。あなたの心の秘密も知ることはできません。それはただ、あなた自身と神様だけが知っていることです。もしあなたが罪を悔い改めるなら、その罪を告白することがあなたの義務です』と。個人的性質の罪は、神と人間の間の唯一の仲保者であるキリストに告白すべきである。「もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる」のであるから、一切の罪は神にむかって犯されたものであり、キリストを通して神に告白すべきものである（ヨハネ 1・2 : 1）。公になされた罪は、すべて公然と告白しなければならないし、同胞に対する罪は、その相手につぐないをすべきである。もし健全を求めている者が他人の悪口を言い、家庭や隣人の間に、または教会内に不和を生ぜしめ、分裂をきたし、軋轢を生ぜしめ、あるいは何か不正な行動によって他人を罪に導いたりしたことがあったならば、その人は神に対し、またその相手の人に対し、そのことを告白しなければならない。『もし、わたしたちが自分の罪を告白するな

らば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめてくださる。』(ヨハネ1・1:9)」(『教会への勧告』p334、335)

「誤ることのない人はいません。誰もが過ちを犯して罪に陥ります。しかし、もし悪を行う者が、罪を示される聖霊の働きによって素直な気持ちになり、自分の過ちを見つめることを厭わないなら、また心へりくだってそれを神と同胞に打ち明けるなら、彼は立ち戻る事が出来、罪の作った傷もいやされるでしょう。この過程を通して、教会には子供のような素直さと、心が一つになる兄弟愛が生まれるでしょう。」(『レビュー・アンド・ヘラルド』1890年12月16日, パート2, 英文)

「岩に落ちて砕かれなさい。そうすればキリストがあなたに真の、天の品性を与えるでしょう。この約束をいただくために、プライド・自尊心・自己義認などに告白を妨げさせてはなりません。『罪を隠している者は栄えない。告白して罪を捨てる者は憐れみを受ける。』(箴言28:13) 何ものにも、私たちが神から離れさせてはなりません。あなたの同胞に対する過ちを告白する気持ちを無視してはなりません。」(『セレクトッド・メッセージ』1巻, p326, 英文)

「あなたの魂の健康、教会員の一致はあなたの進む道にかかっています。ですから神の力強い御手によって己を低くしなさい。神が、予定された時にあなたを持ち上げて下さるために……ある人たちは自分の過ちを知っていますが、告白が自分の品格を貶めると思って言い訳をし、告白が魂に与える弟子としての訓練から逃げています。彼らが過ちを分かっているながら、『お互いに誤りを告白し、癒しを求めて、お互いのために祈りなさい』という勧告に従うことが出来ないなら、どうして他人に忠告する勇気を持つことが出来るのでしょうか？……それは、彼らのプライドを傷つけ、非難し、苦痛を与えるので、心地よくないのです。彼らはキリストの義、聖霊の光を求めて飢え渴きを覚えなければなりません。」(” Fundamentals of Christian Education” 『キリスト教教育の基礎』p239, 英文)

「真の告白は常に、はっきり自分の犯した罪そのものを言いあらわすのです。神にだけ告白すべきものもありましょう。または、だれか害をこうむった人々に告白しなければならないものもあるでしょう。または、だれか害をこうむった人々に告白しなければならないこともあるでしょう。あるいは公のものであれば、公に告白しなければならないこともあるでしょう。いずれにせよ、告白はすべてははっきりとその要点にふれていて、犯した罪そのものを認めねばなりません。……真面目な悔い改めと改革が伴わない告白は、神に受け入れられることはできません

ん。はっきりとした変化が生活にあらわれ、神の嫌われるすべてのものを捨てねばなりません。本当に罪を嘆いた結果はそうなるのであります。私どものなすべきことは、はっきりと示されています。『あなたがたは身を洗って、清くなり、わたしの目の前からあなたがたの悪い行いを除き、悪を行うことをやめ、善を行うことをならい、公平を求め、しえたげる者を戒め、みなしごを正しく守り、寡婦の訴えを弁護せよ』（イザヤ 1：16、17）。』（『キリストへの道』p47-49）

・ 祈りを妨げるもの

- ・ 信じないで祈る。 ヤコブ 1：6、7； マルコ 11：24
- ・ 自分自身の思いに従って祈る。 ヨハネ 1・5：14
- ・ 与え主よりも与えられる物を求める。 ヤコブ 2：23
- ・ 自分の欲望を満たす祈りをささげる。 ヤコブ 4：3
- ・ 神に逆らう生き方をしている。 イザヤ 59：1、2； 詩編 66：18
- ・ あまりにたやすく祈りをあきらめる。 ルカ 18：1-8
- ・ 他人を裁こうとする。 ルカ 6：37
- ・ 他人を赦せない。 マルコ 11：26
- ・ 和解していない争いがある。 マタイ 5：23、24
- ・ 求める者に耳を貸さない。 箴言 21：13
- ・ 家族を尊敬しない。 ペテロ 1・3：7
- ・ キリストに繋がる方法を習得していない。 ヨハネ 15：7

「私たちが祈ったときに求めた通りのものが与えられなかったとしても、主は私たちの祈りを聞き、これに答えてくださることを信じなければなりません。私たちは間違いが多く、先を見ることができませんので自分の祝福にもならないことを願うことがよくあります。けれども天の父は、愛のうちにその祈りに答え、私たちのために最も良いものをお与えになります。それは、もし私たちが天よりの光に目が開かれ、すべてのもののありのままの姿をながめることができたならば、私たち自身も必ず求めるものです。私たちの祈りが聞かれないように見える時も、み約束にかたく頼らねばなりません。なぜならば、祈りが答えられる時が必ずきて、私たちが最も必要とする祝福を受けることができるからです。けれども、祈りはいつも私たちが望むままに答えられ、または、望んでいるそのものが必ず与えられると考えるのは、独断もはなはだしいことです。知恵に満ちる神は、決して誤ることなく、また、正しく歩む者に良きものを拒むこともありません。ですから、たとえ祈りがすぐ答えられなくても、恐れず神に頼り、

『求めよ、そうすれば、与えられるであろう』（マタイ7:7）という神のかたいみ約束に頼らなければなりません。」（『祈り』p166、167）

「人々は、活動が増し、神のためのどんな働きにも成功するようになると、人間的な計画や方法にたよる危険がある。祈りが少なくなり、信仰がうすくなりがちである。弟子たちと同じように、われわれは、神によりたのむことを忘れて、自分の活動を救い主にしようとする危険がある。われわれは、たえずイエスをながめて、働きをなすのはキリストの力であることを認める必要がある。われわれは、失われた者の救いのために熱心に働く一方では、瞑想と祈りと神のみことばの研究に時間をとらねばならない。多くの祈りによってなしとげられ、キリストの功績によってきよめられた働きだけが、善に対して力のあるものであったことが最後にわかるであろう。」（『各時代の希望』中巻, P99、100）

・ 忍耐の必要

「イスラエルの中に信仰と力がなぜもつとないのだろうか、わたしは天使にたずねた。『あなたがたは、主の手をあまりに早く放し過ぎる。あなたの願いをみ座に訴え、強い信仰を持って訴えつづけなさい。約束は確実である。』」（『初代文集』p152）

「熱心な祈りがなければなりません。ヤコブのように祈りの中で神と格闘して魂の敵の手を弱めなければなりません」（『パシフィック・ユニオン リコーダー』1902年6月5日、英文）

「（ヤコブ）の勝利は、しきりに願い求める祈りに力があるということの実証である。彼のように神の約束をしっかりとつかみ、彼のように熱心で忍耐強い者はみな、彼が勝利したように勝利するのである。自分をすて、神の前で心を悩まし、神の祝福を求めて熱心に祈り続けようとしなない者は、それを受けることができない。祈りによる神との格闘——このことを知っている人がなんと少ないことであろう。……嘆願者の上に、言葉では表現することのできない絶望の波が押し寄せるときに、確固不動の信仰をもって神の約束にすがる者が、なんと少ないことであろう。」（『各時代の争闘』下巻, p395）

「悪魔は、祈りをおろそかにする者を暗黒に閉ざし、……祈りは、全能の神の無限の資財が蓄えられてある天の倉を開く信仰の手に握られた鍵であります。それにもかかわらず、神の子らは、なぜ祈りをおろそかにするのでしょうか。」（『キリストへの道』p129）

「もし私たちが、人類に貢献している活動の全てを、神がご覧になっているようにあきらかに見ることが出来たなら、そこには多くの祈りによって達成された働きだけを見ることになるでしょう。それが、キリストの功績によって清められて、裁きに耐えられるものとなるのです。」

（『クリスチャン・サービス』 p263, 英文）

「祈りと信仰は密接な関係をもっており、両方一緒に研究する必要がある。信仰の祈りには天来の学問がある。人生の活動に成功したいと思えば、だれでもこの学問を理解しなければならない。キリストは、『なんでも祈り求めることは、すでになえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう』と仰せになっている。キリストは、我々の祈りが神のみ心にかなったものでなければならぬことを明らかにしておられる。我々は神の約束なされたものを求め、そして与えられるものはすべて神のみこころをなすために用いなければならない。この条件が果たされるときに、約束ははっきりしている。」（『祈り』 p171、172）

「われわれは今、神の約束を試すことによって、神をよく知らなければならない。天使は心からの熱心な祈りをすべて記録している。われわれは、神との交わりを怠るよりも、利己的な満足を求めることをやめるべきである。神の是認の下にある最低の貧困、最大の自己犠牲は、是認のない富、栄誉、安楽、友情にまさっている。われわれは、時間をかけて祈らなければならない。」（『各時代の争闘』 下巻, p396）

「われわれがこのようにして求めなければ与えられないものが、信仰の祈りにこたえて、われわれにさずけられることが、神のご計画の一部である。」（『各時代の争闘』 下巻, p270）

「日一日と、永遠を指して経過するにしたがい、恩恵時代の終末にますます接近して参ります。されば、私共は前例なきほど、一層豊かに聖霊の与えられんために祈らなければ……なりません。」（『福音宣伝者』 p447）

「心を合わせてささげられた信仰の祈りは天にのぼり、その答えがかえってきた。彼らの集まっていた場所が揺れ動き、彼らは新たに聖霊をさずけられた。」（『患難から栄光へ』 上巻, p67）

上記に引用した靈感の言葉が指摘しているように、私たちが「結ばれた祈り」とへりくだりと一致の心を忍耐強く持ち続けるなら、神は祈りを聞かれ、私たちの期待をはるかに超えて応えて下さるでしょう。私たちはこれらの提案が皆さんの助けになると期待しますが、これだけに

留まらないでください。主に導かれてさらに前進を続けてください。

ひざまずいて前進 - 後の雨を求めて祈ろう！

(9) 教会指導者の言葉

「ここ、世界総会本部にいる私たちは、ARMEの祈りのチームが過去数年間、繰り返し主に求めてきたことに対して謝意を述べたいと思います。主が驚くべき方法で人の心を動かして下さったので、私たちは祈りに対する驚くべき答えを何度も見ることが出来ました。とりなしの祈り、講習会、指導者と出席者たちに与えられた祈りあう機会、これらすべてが、この世界教会に重大な影響を与えました。永遠の御国に入るまでは、皆さんの多くの祈りゆえに神がなされたわざの全てを知ることはないでしょう。」ジェリー・ペイジ 世界総会事務局セクレタリー

「私はARMEの祈りのチームと、前回の世界総会年次総会期間中の彼らの祈りの奉仕に感激して、彼らを年末に南アフリカで23カ国の教会指導者を招いて行われる支部会議に招待しました。この「結ばれた祈り」が行っていることは決して新しいことでも、急に現れたものでもありません。それは極めて聖書的なものなのです。

アマレク人に対するヨシュアの戦いの物語を思い出して下さい。その戦いの中で、アロンとフルはモーセの腕を支え続けました（出エジプト記 17:8-16）。この「結ばれた祈り」はモーセ、アブラハム、ダニエル、エステルそのほかの人々の生涯についても記録されています。このような真剣で熱心な「結ばれた祈り」は（もし実践されるなら）世界中の全ての教会、全ての教区に偉大な祝福をもたらすでしょう。その結果として聖霊が降り注ぎ、イエス様は約束通り再臨されるでしょう。」ポール・ラトサラ 南アフリカ - インド洋支部 総理

(10) 祈りとリバイバルの資料

書籍

真のリバイバル — エレン・G・ホワイト

患難から栄光へ — エレン・G・ホワイト

信仰のリバイバルをめざして — マーク・フィンレー

『「二階の広間」での10日間—聖霊の賜物を受けるために—』 — マーク・フィンレー

If My People Pray — ランディ・マックスウェル

40 Days of Prayer — デニス・スミス

ウェブサイト（英文）

祈りの十日間

www.tendaysofprayer.org

リバイバルと改革

www.revivalandreformation.org

御言葉による覚醒

www.revivedbyhisword.org

ARME バイブルキャンプ

www.armeibiblecamp.com

「結ばれた祈り」のあかし集

www.unitedprayer247.com

このテキストの電子版

<http://777.adventist.jp/>

Copyright © 2011, 2012, 2014 by Melodius Echo Mason, ARME Prayer Ministries, and Janet Page, Associate Ministerial Secretary for Prayer and Pastoral Families, General Conference of Seventh-day Adventists.

特に断りのない限り、聖書のテキストは新共同訳によります。

著者名のない引用は、エレン・G・ホワイトの著書からのものです。

内容が損なわれない限り、本書の転載、コピー、翻訳をお勧めします。著作権は上記に記載した関係者にあります。複製された著作物を世界総会事務局の許可なしに販売することを禁じます。

このミニハンドブックの英語の電子版はウェブサイト(www.revivalandreformation.org)からダウンロードできます。著作物に対する問い合わせは同じウェブサイトをお願いします。

「ただで受けたのだから、ただで与えなさい。」（マタイ 10 : 8）